

アジア太平洋時代の幕開け

（文部科学省）

21世紀は、アジア太平洋の時代になると言われている。昨年(1994年)、アジア太平洋経済協力会議(APEC)がインドネシアで開かれ、「先進国は、2010年、開発途上国は、2020年までに、貿易・投資の自由化を達成する」という目標を設定し、一応の成果を得た。今年は、日本で開かれる予定である。今回の会議は、これまでのように、先進国グループと途上国グループの間で、前者が援助国、後者が受益国という立場で進められる会議ではなく、両者が対等の立場で会議に臨んだという意味で、画期的なことであった。アジア太平洋時代の幕開けを象徴する出来事であるといえよう。

国連の地域区分によれば、アジア太平洋地域は、西はイラン、東は西サモアまで、北は中国、南はニュージーランドまでの広大な地域を含み、国連では、バンコックに事務局を置くアジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)が管轄している。加盟国数は、58か国・政府に達する。アメリカや、イギリス、オランダ、フランス及びロシアは、域外加盟国に位置づけられている。

アジア太平洋統計研修所(SIAP)は、ESCAP地域の研修機関として、域内加盟諸国・政府から毎年70名余りの研修生を受け入れている。統計の分野での国際交流の現場でもある。

アジア太平洋地域には、「東アジアの奇跡」と呼ばれる昇竜の勢いにある国々(インドネシア、韓国、シンガポール、タイ、日本、マレーシア、香港及び台湾の8か国・政府を指す——1993「世銀レポート」——)もあれば、悠久何千年の歴史と文

明を有する中国や、インドのような大国や、社会主義的計画経済から資本主義的市場経済への移行途上にある国、独立して間もない国、そして太平洋に浮かぶ島諸国など、経済の規模、発展段階、制度において、多様な国・地域が含まれる。

世界におけるアジア太平洋地域の位置づけを見ると、人口では、31.5億人(1992年)であり、世界人口55億人の57パーセントを占め、その比率は10年前とほとんど変わらないが、GDPのシェアは、1980年の16パーセントから、1990年には、23パーセントと、7ポイント上昇しており、経済的にも、大きな位置を占めるようになっている。(数字は、国連資料による。)

このような中において、アジア太平洋経済協力会議は、地域の先進国はもとより、開発途上国にしても比較的経済発展の進んだ、あるいは進もうとしている国・地域によって構成されており、いわば、OECDのアジア版とでも言えるフォーラムである。このフォーラムを、構成する国・地域は、「4匹の竜」と呼ばれる韓国、シンガポール、香港及び台湾をはじめ、いずれも、社会システムのインフラストラクチャとしての統計システムが比較的よく発達していると言える。別の言い方をすれば、統計を重視し、政策面でも、よく利用するからこそ、経済発展をなしたのであろう。

他方、後発開発途上国(LLDC)など、これらの国々ではどうか。

カンボジア、ミャンマー、モンゴル及びラオスなどの市場経済移行国では、かつて、社会主義的

国連アジア太平洋統計研修所

副所長 家田博行

計画経済の下で、情報源を報告制度に依存していた。例えば、カンボジアでは、経済関係のセンサスは、1962年以来、未実施であると言う。そのような状態から、今度は、一転して、市場経済の下で、統計調査によるデータ収集を行わなければならないのである。これらの国から来所する研修生は、向学心に燃えている人が多い。それぞれ、帰国後は、特定の統計調査の企画、実査、そして報告の作成まで処理することが期待されているからであろう。

旧ソ連の解体とともに独立した中央アジアの国々、例えば、アゼルバイジャン、キルギスタン、カザフスタンなど6か国は、今や、アジア太平洋地域の一員になった。しかし、国連の地域区分では、旧ソ連がヨーロッパ地域に所属していた関係で、国連開発計画(UNDP)などによる援助プログラムでは、ヨーロッパ地域の所管事業になってしまふため、心はアジア、物はヨーロッパという具合に、股裂き状態にあるという。昨年、SIAの統計研修にこの地域からはじめて参加した研修生の話によると、原材料の不足、設備の維持管

理の不備などにより、工場の操業率も極度に低下したままであり、独立後、3年を経過した現在では、国民の過半数がロシアへの復帰を願望しているという話である。

南国の楽園と言われる太平洋地域——いわゆるオセアニア——には、21の国ないし政府が含まれるが、オーストラリアや、ニュージーランドという先進国を除く各国に共通する悩みは、肝心の人的資源の流出である。例えば、トンガでは、人口9万8千人のうち、5万人以上の人々が国外——特に、オーストラリア、ニュージーランド——に出稼ぎしており、過疎化現象が続いているそうである。

このように、アジア太平洋地域は、悩み多き地域であるが、広大な地域、そして膨大な人口が秘めるニーズは、計り知れないものがあり、経済面では、膨大な需要を生み出すであろう。今後、これらの地域において、人的資源の開発と投資の促進を通じる資本蓄積が促進されれば、それは、地域のさらなる経済発展の原動力となるであろう。その意味で、アジア太平洋地域は、また夢多き地域でもある。

